

令和5年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	「SDGs 子ども大学上越」による人材育成事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授 釜田聡
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越市総合政策部 (担当者職名・氏名) 企画政策課 課長 志賀 陽一 様
4 事業の趣旨・目的	<p>(1)事業の目的 本申請事業「SDGs 子ども大学上越」は、本学に上越地域の児童生徒を招き、SDGs の理念や目的、上越地域の具体的な事例を学ぶ場を設定することで、児童生徒自らが進んでSDGs の目標にかかわる具体的な実践を促すことを目的とする。</p> <p>(2)事業の趣旨 ①「SDGs 子ども大学上越」 「子ども大学」は2002年にドイツの大学を起源としてはじまった。日本では2009年に初めて「子ども大学かわごえ」が誕生し、全国に広がりつつある。申請者グループは、子ども大学の趣旨に賛同すると共に、SDGs の普及をめざすため、2022年「SDGs 子ども大学上越」実行委員会を創設し準備を進めてきた。</p> <p>②上越市との関係 上越市は2022年秋、「第7次総合計画」を策定した。その中で、将来都市像の実現に向け、<u>総合計画とSDGsの一体的推進を掲げ、行政はもとより市民や事業者など様々な主体が協働してSDGsの理念を実現する方途を提示した。</u>また、「上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、<u>具体的な施策として、健やかな育ちへの支援の充実 (B2-2-3)と地域ぐるみの子育ての推進 (B2-3-4)が掲げられている。</u></p> <p>以上の上越市の施策は、本申請事業の目的に合致するものであり、また上越市と本学の関係を取り結ぶ上から、必要不可欠な事業である。また、本学では、<u>第4期中期計画143において、SDGs教育の充実と固有のリテラシーの修得が掲げられていること</u>から、本事業の公益性・必要性は十分に認められると考える。</p> <p>【具体的施策の体系番号：B-2-3、B2-4】</p>
5 事業活動報告	<p>2023年</p> <p>前期 学生への事前指導等 (SDGsの基本的な知識・技能等)</p> <p>後期 活動の準備</p> <p>10月 PR活動：チラシの作成、校長会等への連絡、関係学校への訪問等 ⇒ コロナの流行状況をふまえ延期決定</p> <p>11月 活動の再検討</p> <p>12月 子ども大学のチラシ作成</p> <p>2024年</p> <p>1月 PR活動：子ども大学のチラシ配付</p> <p>2月18日(日) 第1回SDGs子ども大学 in 上越開催 申込み：5人、当日参加者3人(小学4年生) 欠席者は発熱等のため、欠席</p> <p>当日は、次の内容で実施した。</p> <p>プログラム① ガイダンス等</p> <p>プログラム② ワクワク！ワイワイ！SDGs工作</p> <p>プログラム③ それ、MOTTAINAI(もったいない)!? つくって、食べて、考えよう！ みんなでおいしいカレーをつくるよ。</p> <p>プログラム④ リフレクション</p>

6 本事業で得られた成果	<p>参加した保護者からの感想</p> <p>昨日はありがとうございました。</p> <p>カレーは野菜屑を出さないように皮も利用したことや、テラリウムを作りながら森のことを考えたと楽しそうに話してくれました。今朝早速霧吹きで水をあげてました。</p> <p>また、学生さんたちにも遊んでもらったのが楽しかったと言ってました。お世話になりました。</p> <p>家庭ではなかなかSDG Sを話す機会がないので、とても素晴らしい有意義な活動だと思います。こどもの話を聞くことで、家族も勉強になりました。</p> <p>来年もあったら参加したいと言ってました。</p> <p>また機会がありましたら、よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
7 その他(成果物等の名称)	



2024. 2. 18